

動物遺伝資源学 (2単位)

担当者氏名 古川力・野村こう・米澤隆弘

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

近年、人口増加や地球の温暖化により世界的な食料不足が大きな問題となっている。一方、我が国においては、国民生活の向上に伴って、消費者ニーズは、量から質へと変化し、良質の畜産物の生産、銘柄化が求められている。このような中、動物遺伝資源の重要性は一段と高まっている。しかし、生産性重視の育種改良により、遺伝的多様性は激減している。本論では、家畜の起源、野生原種ならびに近縁野生種、動物遺伝資源の特性と保全、新たな利用に至る様々な問題について講義する。また、在来家畜の海外調査実績についても紹介し、育種遺伝分野における広範な専門知識を身につけることを目的とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

食料生産	資源の有効利用	家畜の起源	在来家畜
遺伝的多様性	育種素材の開発	世界の畜産	

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容 と分量
1	緒論(1)	家畜の起源、家畜化の歴史、野生	動物遺伝資源学の概念について理解する。
2	緒論(2)	原種ならびに近縁野生種、動物遺	
3	動物遺伝資源の探索・評価(1)	伝資源の重要性等について解説	世界の畜産事情、食料事情等の広範な知識を蓄積する。
4	動物遺伝資源の探索・評価(2)	国内外における動物遺伝資源の実	
5	動物遺伝資源の探索・評価(3)	態、その遺伝的特性について解説	
6	動物遺伝資源の保全(1)	在来家畜の海外調査実績等の紹介	生産性重視や国民生活の向上に伴う、遺伝資源(品種)の激減。そのための方策について理解する。
7	動物遺伝資源の保全(2)	希少動物・品種の保全の現状と問	
8	動物遺伝資源の保全(3)	題点、その重要性について解説	
9	動物遺伝資源の保全(4)	FAO による国際的な保全対策につ	
10	動物遺伝資源の有効利用(1)	いて解説	動物遺伝資源の利用の現状と課題、新たな利用法について学ぶ。
11	動物遺伝資源の有効利用(2)	在来家畜の新たな育種素材として	
12	動物遺伝資源の有効利用(3)	の利用、畜産分野以外での利用の	
13	動物遺伝資源の有効利用(4)	可能性について解説	動物遺伝資源研究の今後の方向や新たな可能性について学ぶ。
14	総括(1)	消費者ニーズの多様化に伴う在来	
15	総括(2)	家畜の重要性、食料生産には果たす役割等について考察	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

適宜、資料を配付する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポートの提出等により評価する

◆オフィスアワー

随時

◆その他受講上の注意事項